

蒜山で集落を見下ろす中世古墓を調査

はつわ
初和古墓

ひるぜん
真庭市蒜山初和

国道313号(北条湯原道路)道路改築に伴って、蒜山初和(旧中和村)集落の西側尾根上に位置する初和古墓の発掘調査を行いました。

調査前は、塚状高まりの南側に宝篋印塔^{ほうきょういんとう}が立ち、辺りに五輪塔^{ごりんとう}の部材80点ほどが集められた状態でした。調査の結果、宝篋印塔と五輪塔は本来の位置ではなく動かされていることが分かりました。塚状高まりは東西が削られていましたが、南北9m、東西5m以上、高さ1.5mを測る長方形であったことが判明しました。その構造は、山土を削り残した上に黒色土と黄色土を交互に積み重ねたものでした。また、塚状高まりの中央付近に1辺3.4m、深さ1.4mの四角い穴が掘られていましたが、この穴や盛り土からは遺物が出土しませんでした。塚状高まりの東側斜面では、五輪塔の組み合ったものが転落した状態で検出されたので、近くに五輪塔が並んでいた可能性もあり、宝篋印塔は戦国時代までに作られたと推定されるので、塚状高まりとその下の穴もそれに近い中世後半に構築されたと思われます。

このほか、長径約1mで楕円形の縄文時代の落とし穴2基を確認しました。

(氏平昭則)



初和古墓の塚状高まりと宝篋印塔・五輪塔の集積(南から)

国道180号改築に伴う発掘調査 終章！

しんめい 神明遺跡

総社市福井

一般国道180号（総社・一宮バイパス）改築工事に伴い、2年にわたって行ってきた神明遺跡の発掘調査を、本年度9月で終了しました。

遺跡推定範囲のうち、調査対象は道路建設の予定地にかかる東西約500m、南北幅約40mの範囲です。本年度は、昨年度銅鐸の出土で注目を浴びた遺跡西半（1～3区）の調査に引き続き遺跡東半（4～6区）の調査を行い、弥生時代から古墳時代を中心とした集落の様子を明らかにできました。

新たに検出した弥生時代の遺構は竪穴住居が25軒、土坑70基、溝5条で、弥生時代後期（約2,000年前）を中心に終末期（約1,800年前）頃までのものがあります。弥生時代の遺構は主に5区で検出され、調査区東端の6区では見られないことから、当時の生活域は2区から5区までの東西約300mの範囲であったと推測されます。弥生時代の遺物は生活に使用される土器や石器がほとんどでしたが、中には分銅形土製品や器台などの祭祀的な性格を持つものも含まれていました。

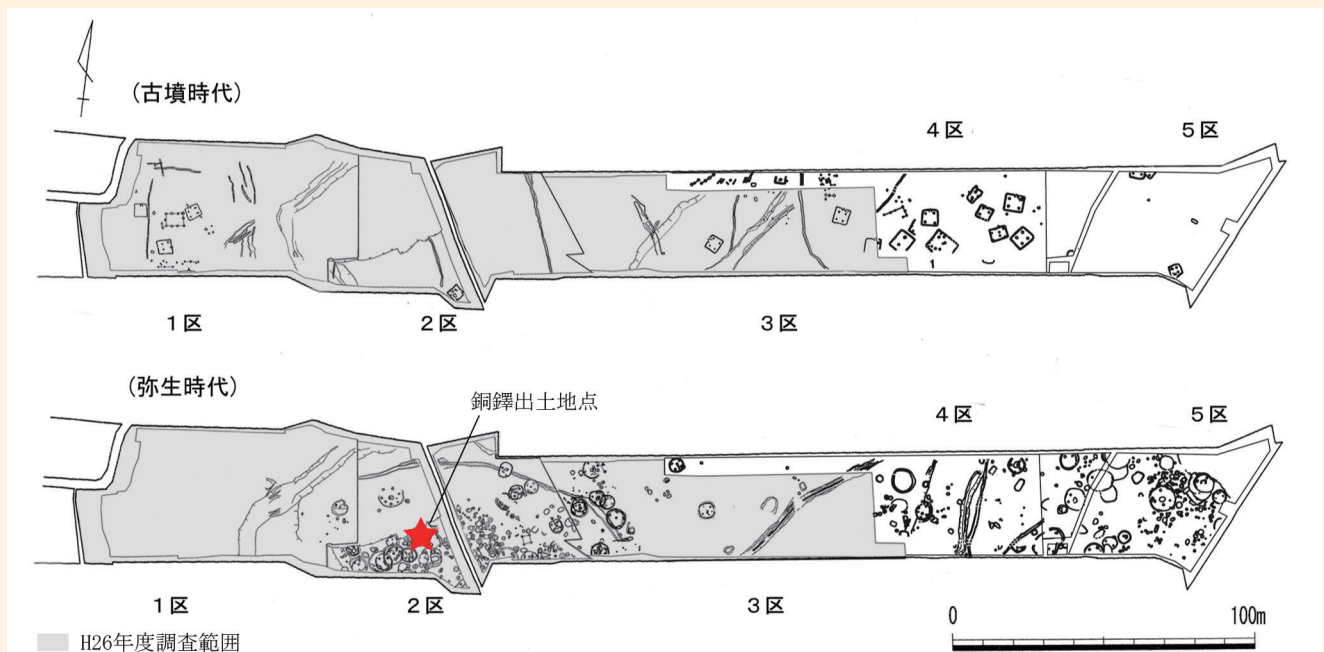
古墳時代の主な遺構は竪穴住居16軒、掘立柱建物1棟、土坑3基、溝4条で、大半が古墳時代後期（約



神明遺跡の位置



神明遺跡全景（西から）



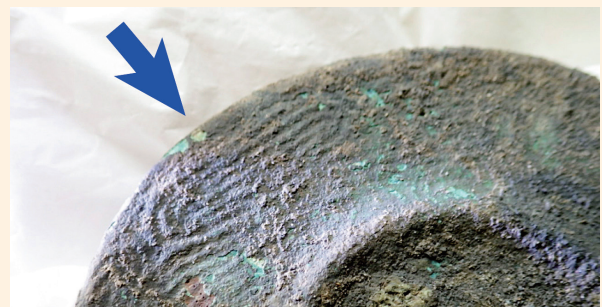
神明遺跡 1～5区全体図 (1/2,500)

1,500年前)頃のものでした。注目される遺物として、4区で出土した^{ふいご はぐち}鞆の羽口があります。羽口とは炉の中に空気を送る土製の送風管で、古墳時代の集落では主に鉄を加工する鍛冶工房で用いられていました。神明遺跡では鍛冶工房の跡は検出されていませんが、羽口が出土したことから、調査地点付近のどこかに鍛冶工房が眠っている可能性があります。神明遺跡の周辺には大規模な鍛冶工房群が検出された^{くばきやくし}窪木薬師遺跡や、日本最古級の製鉄遺跡である千引カナクロ谷製鉄遺跡などがあり、これらの遺跡群との関連も注目されます。

昨年度出土した神明銅鐸は、その後独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の指導・協力の下、クリーニングと調査が進められました。その結果、この銅鐸は扁平鈕式古段階の4区袈裟襷^{へんぺいちゅう}文銅鐸という型式に分類されることが明らかになりました。これよりも古いタイプの銅鐸は備中地域では1例しか知られておらず、早い段階でこの地にもたらされた銅鐸である可能性が指摘できます。神明銅鐸の最大の特徴は、鈕の片面に流水文^{りゅうすいもん}(水の流れを現したような模様)が描かれている点です。同様の文様を持つ銅鐸は全国でも3例しかなく、非常に珍しいタイプの銅鐸であることが分かりました。神明銅鐸がどのようにしてこの地にもたらされ、そしてなぜ埋納されることになったのか、その謎の究明が急がれています。(藤井翔平)



クリーニング後の神明銅鐸



鈕に描かれた流水文

一般国道2号(玉島笠岡道路)改築工事の発掘調査始まる

一般国道2号（玉島笠岡道路）改築工事に伴う発掘調査を、今年度10月から新たに始めました。対象遺跡は、浅口市に所在する和田谷遺跡と里庄町に所在するマキサヤ遺跡です。

和田谷遺跡

和田谷遺跡は、浅口市鴨方町六条院西に所在します。西側に向けて開ける丘陵地斜面上に位置しており、調査地内の標高は、高いところで37m、低いところで31mになります。

10月から調査を開始して、現在までに奈良時代から鎌倉時代初めにかけての掘立柱建物や溝などが検出され、遺物では須恵器・土師器の他に当時貴重品であった緑釉陶器も見つかっています。その中でも奈良時代の掘立柱建物は、屋内にも床を支える柱を立てた総柱建物と呼ばれるものです。柱と柱の間が4×2間の規模になり、床面積は30㎡ほどあります。この大きさは、県内で見つかっている総柱建物の中でも大きい部類に入ります。この時代の総柱建物には、収穫米を備蓄する倉庫として使われたものがあります。和田谷遺跡の建物は柱の掘り方も大きく、倉庫として使われたのかもしれませんが、いずれにしても、今まで奈良時代の遺跡の調査例が少なかった県南西部において、古代浅口郡の一端を垣間見ることができる大きな成果であったといえるでしょう。



和田谷遺跡の総柱建物（南から）

マキサヤ遺跡

マキサヤ遺跡は、谷の出口にあたる東向き緩斜面に位置します。斜面の上方は後世の地形改変を受けているため、遺構の残りはあまり良くありませんでした。しかし、斜面の下方や調査区の南端部分では、縄文時代中期から室町時代にかけての遺物が出土し、竪穴住居・柱穴列・土坑・たわみ状遺構などが残っていました。特に縄文時代中期から後期（約5,500～3,300年前）の土器は残りが良く、今回の調査では明確な遺構が見つからなかったものの、この付近に当該期の集落が存在したと思われます。また、弥生時代中期（約2,100年前）の段状遺構と古墳時代初頭（約1,800年前）の竪穴住居を、それぞれ1軒確認しました。古墳時代初頭の竪穴住居は平面形が一辺4mの方形で、2本の柱によって屋根が支えられていたことが分かります。

本格的な発掘調査の事例が少ない里庄町において、縄文時代から室町時代にかけての遺構・遺物を確認できた今回の調査は、町内の歴史を考える上で大変貴重な成果であったといえます。

（小林利晴・松尾佳子）



調査区全景（北から）



古墳時代初頭の竪穴住居（北から）

講演会「吉備の弥生社会と青銅器」

1月23日（土）、県立図書館において田崎博之先生（愛媛大学埋蔵文化財調査室長）と難波洋三先生（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長）による講演会を開催しました。

田崎先生は弥生時代の瀬戸内地域における交流を中期前葉～中葉、中期後葉～後期前葉、後期中葉～終末の三段階に分け、それぞれを、往来が拠点集落に限られる点と点を繋ぐような交流の段階から、組織化された集団によって網目状にのびる交流ネットワークが整備された段階、さらに独自の対外交渉ルートを模索した段階と評価されました。そして、吉備地域は広域交流ネットワークの結節点としての役割を担っていたこと、後期以降には対外交渉の窓口として近畿地域に影響を及ぼす存在であったことを説かれました。

難波先生は、銅鐸の変遷について触れ、10以上あった工人集団が統合されていく過程は、地域勢力の間に政治的な連合や統合が行われたという社会変化を具体的に示していると指摘されました。また、吉備出土の銅鐸について説明があり、この地域の近畿式銅鐸が古い型式に限定される理由について三つの可能性を示されるとともに、昨年、総社市の神明遺跡で発見された銅鐸の特徴についても解説されました。



田崎博之先生の講演



難波洋三先生の講演

今年度のイベントを振り返って

今年度も、埋蔵文化財を活用した体験学習・講座や現地説明会を開催し、大勢の方にご参加いただきました。特に、8月18日～21日に開催したワクワク体験「土器にふれよう！」の鏡づくりや勾玉づくりの体験、12月12日の「山城探検隊－平成二十七年冬の陣－」には多くの応募があり、参加者の方々からは、「楽しかった」・「説明が分かりやすかった」などの感想を頂きました。

来年度も、埋蔵文化財の大切さを理解してもらうため、様々なイベントを開催します。詳しい日時や内容等は、センターのホームページなどで随時紹介しますので、ぜひご参加ください。

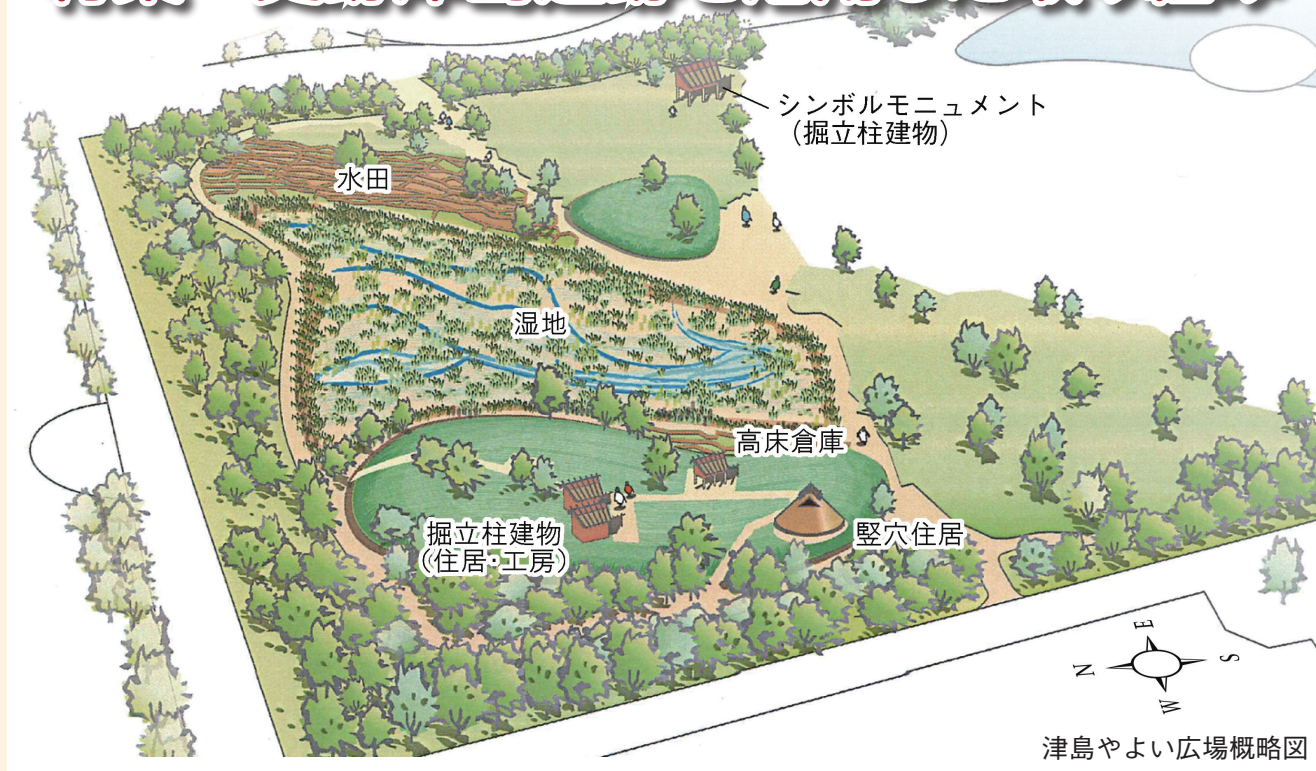
主な普及啓発活動



ワクワク体験での「鏡づくり」

	開催日	内 容
体験学習・講座等	5月23日（土）	こども体験教室「石包丁をつくろう！」
	8月1日（土）・2日（日）	ドキドキ発掘体験！
	8月18日（火）～21日（金）	ワクワク体験「土器にふれよう！」
	9月26日（土）	津島遺跡文化財講座第1回
	10月24日（土）・25日（日）	津島やよいまつり
	11月21日（土）	大地からの便り 2015
	11月28日（土）	津島遺跡文化財講座第2回
	12月12日（土）	山城探検隊－平成二十七年冬の陣－
	1月23日（土）	講演会「吉備の弥生文化と青銅器」 （津島遺跡文化財講座第3回を兼ねる）
	2月27日（土）	津島遺跡文化財講座第4回
現地説明会等	5月25日（月）	百間川背割堤（岡山市中区中島）
	9月5日（土）	神明遺跡（総社市福井）
	2月20日（土）	和田谷遺跡（浅口市鴨方町六条院西）ほか

特集 史跡津島遺跡を活用した取り組み



■ 津島遺跡の保存

津島遺跡は、現在の岡山県総合グラウンド周辺に所在する、縄文時代後期から近代にかけての遺跡です。昭和43年、遺跡の中心部で武道館の建設が着工された際、全国的な保存運動が起こり、工事を中断して発掘調査が行われました。その結果、弥生時代初め頃の集落跡と水田跡が一緒に確認されたことから、わが国の稲作開始期の実態を明らかにした重要な遺跡として、昭和46年、遺跡の一部が国指定史跡となりました。さらにその後の調査で得られた成果から、平成14年には追加指定がなされ、計67,020㎡の範囲が史跡として保存されています。

■ 「津島やよい広場」の整備

津島遺跡の所在する県総合グラウンドが、平成17年岡山国体の主会場として決定したのを契機に、「津島やよい広場」の整備が計画され、平成21年3月に完成しました。集落跡部分には竪穴住居や高床倉庫などを復元し、水田跡部分には畦や水路を表現、その一角には実際に稲作を体験できる「やよい農園」を設けています。また、弥生時代に湿地であった部分には水辺の風景を再現し、季節によってアヤメ、アジサイの花やススキの穂並を見ることができます。広場南東の一角に設置されたシンボルモニュメントは、陸上競技場（シティライトスタジアム）改修に伴う発掘調査で出土した建築木材の検討をもとに復元した建物です。

また、陸上競技場の1階には「遺跡&スポーツミュージアム」が整備され、出土品などが展示されています。

■ 津島遺跡の活用

津島やよいまつり 津島やよい広場と遺跡&スポーツミュージアムを会場として、毎年10月頃、土曜・日曜の2日間にわたって開催しており、今年度は8年目を迎えました。勾玉づくり、火起こし、石包丁による古代米の収穫、木製の杵と臼を使った粳すり、弥生土器パズル、クイズラリー、弥生人



やよいまつり 火起こし・石包丁による収穫・弥生土器パズル

に変装して写真撮影など、豊富なメニューを用意しています。近年は、2日間で1,000人ほどの参加者があり、恒例のイベントとして地域に定着してきたようです。

小学校遠足など 毎年4月から5月を中心に、遠足や社会科見学で津島遺跡を訪れる小学校が多数あります。今年度は9校で、岡山市内のほか、玉野市、高梁市からも来られました。やよい広場とミュージアムの見学、さらに時間に余裕がある場合は、要望に応じて火起こしや勾玉づくりの体験も加えました。6年生の場合が多く、社会科の授業で学んだことを振り返りながら、実物を目の前に、さらに理解を深めてもらえたのではないのでしょうか。

やよい農園 復元水田の一角で、イネのほか、年によってムギ・キビ・アワ・マメなども栽培しています。イネは、古代米と言われる赤米や黒米で、6月に田植え、10月のやよいまつりで石包丁を使った収穫（穂摘み）体験を行っています。収穫した米は、翌年の種粳とするほか、粳すり体験にも使用します。

■ 津島遺跡ボランティアの養成と活動

津島遺跡の保存と活用にあたっては、「津島遺跡ボランティア」の皆さんに支援を頂いています。現在、15名の方がボランティアとして登録されており、いずれも当センターが平成21～23年度に開催した「津島遺跡文化財講座」の受講・修了者です。ボランティア登録後も、研修として各種講座等に参加し、津島遺跡や埋蔵文化財についての知見を一層広めていただいています。

ボランティア活動としては、やよいまつりなど各種イベントへの従事、小学校など見学者の案内・説明、やよい農園の管理作業などがあります。また年3回、当センター職員との連絡会議を開き、より有効な活用の方策や改善すべき点など、貴重な意見を頂いています。そして今年度、新たなボランティアの養成を目指した文化財講座（全4回）を開催しました。受講生30名の中から、新しい仲間が誕生することを期待しています。



講座受講生募集のポスター



小学校遠足（ボランティアによる説明）



やよい農園田植え



津島遺跡文化財講座

『おかやま☆遺跡探訪』を刊行しました

多くの方々に身近な遺跡に親しんでいただくため、県内の主要な遺跡や出土品等を収めた資料館等を紹介するガイドマップ『おかやま☆遺跡探訪』を、平成24年度からシリーズで刊行しています。

このガイドマップは、A2判（60×42cm）のカラー両面刷で、携帯しやすいように小さく折りたたむことができます。ガイドマップの一面には対象とする地域全体を見渡した鳥瞰図、もう一面には遺跡が集中する場所を拡大して掲載しました。取り上げた遺跡は、見学のしやすさや保存状態などから3つに色分けし、たくさんの写真を使って解説しています。

これまでに、「吉備路とその周辺」（総社市東部）、「両宮山古墳とその周辺」（赤磐市・岡山市東区）、「瀬戸内市とその周辺」（瀬戸内市）を刊行しており、4作目となる今回は、「津山市街地とその周辺」と題して、津山市街地から奈義町にかけての地域を取り上げました。

岡山県北東部に位置し、中国山地と吉備高原にはさまれた津山盆地周辺は、古くから山陽・山陰を結ぶ交通の要衝として栄えた地域で、弥生時代の集落、古墳、古代の国府・国分寺、中世の山城など、魅力的な遺跡がたくさん残されています。今回のガイドマップでは、津山城跡や美和山古墳群など国史跡に指定された有名な遺跡から、一般にはあまり知られていなくても興味深い遺跡まで、合計62か所の遺跡や博物館などを取り上げました。もしかしたら、ふだん何気なく眺めている場所に、意外な遺跡を発見できるかもしれません。

これまでに刊行したガイドマップはセンターで配布しているほか（「両宮山古墳とその周辺」は品切れ）、県内の図書館や、センターのホームページでもご覧いただけます。ぜひこのマップを手し、身近にある遺跡を訪ね、その魅力を感じていただければ幸いです。



刊行したマップ



「両宮山古墳とその周辺」の遺跡解説と「赤磐・岡山東区エリア」拡大図

メールマガジン「大地からの便り」読者募集中！



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市北区西花房 1325-3

TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

●交通案内 JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩 40分
JR吉備線吉備津駅下車徒歩 25分

●業務時間 AM8:30～PM5:15

●休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始

●展示室の開館 AM9:00～PM5:00

年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。
ただし、臨時に休館することがあります。

ひろげよう あふれる笑顔と 思いやり